

令和3年度 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

少子高齢化社会がまさに現実的な問題となってきた日本の現状において、国では労働力不足が不安視されることから、働く意欲のある高齢者が能力や経験を生かし、年齢に関わりなく働くことができる生涯現役社会を目指しています。

このような環境の下、定年延長への道筋が徐々に進められており、今までの60歳からのシルバー人材センター会員の確保が極めて厳しい状況になっております。

今後いかに「知識」と「経験」を有する人材を確保できるかが大きなテーマとなっています。

さて、令和3年度は夏に東京オリンピック・パラリンピックが開催されたものの、前年に引き続きコロナウイルスの感染拡大との戦いの1年でした。

この間ウイルスの新たな株の出現もあり依然としてその終息が見えない状況にあります。

当センターの運営にもコロナ禍による影響は当然のごとく大きく、緊急事態宣言による雇用の減少、また会員自らの感染予防など今まで経験したことのない状況の中、各種事業の中止が相次ぎ計画通りには事業運営が行えない苦悩の1年間でありました。

しかしながら、その中で感染予防に万全を期し、実施可能な事業は感染予防を徹底しながら行い、会員も元気に就業されました。

令和3年度の会員状況と契約金額実績については、会員数は前年度より3人減の716人、また、請負事業と派遣事業の契約金額の総額は、前年比406万1006円増の3億4563万2944円となり、請負事業が前年比485万2160円増の3億709万2354円で、派遣事業が前年比79万1154円減の3854万590円でありました。

以下、各事業の実施状況について報告致します。

1. 会員の増強事業

国の定年制延長方針の影響やコロナウィルス感染拡大により、新規入会者数が減少する中で、当センター組織の安定した運営を確保するために、会員数の増強策と女性会員増加の課題に対して、以下の事業に積極的に取り組み、一時は700名を切っていた会員数も700名を超え、若干明るい兆しが見えてきました。

- (1) 令和3年1月から開始した市の広報紙の有料広告欄を利用し、広く市民への入会を呼びかけており、このことにより新規会員の多くがこの情報により入会しました。
- (2) コロナ禍においても十分に環境に配慮し、会場を川里農業研修センターから市中央部のクレアこうのすに移し入会説明会を毎月2会場で開催し、いつでも入会ができるような身近なシルバー人材センターとして魅力発信を図りました。
- (3) 自宅のパソコン等によるWEB入会チャンネルにより、仮登録制の入会説明会の予約促進を図り、入会説明会の簡略化を図りました。
- (4) 女性会員の増強策として、「女性向け入会説明会」を11月12日にクレアこうのすにおいて開催し、10名の参加者のうち8名の方々に入会していただきました。

2. 就業開拓提供事業

就業拡大を図ることは、当センターの運営基盤の安定を築き、更なる発展につながることから、会員の希望と能力に即した就業ができるよう、鴻巣市や関係機関、企業、家庭等からの就業ニーズの把握に努めましたがコロナ禍により不十分な活動もありました。

- (1) 鴻巣市及び鴻巣市社会福祉協議会が一体となって推進する今後の地域高齢者を支える仕組みづくり（支えあい推進会議）に3回、事務局長が出席し意見交換を行いました。
- (2) お客さま満足度調査として民間企業及び植木・除草業務の実績のあった個人に対しアンケートを実施して今後のサービス向上のための分析を行いました。
- (3) 理事等が中心となり行政や企業、家庭等を訪問し積極的なPR活動を行いました。

3. シルバー派遣事業

公益財団法人いきいき埼玉の実施事務所として、シルバー派遣事業（一般労働者派遣事業）を積極的に推進し、多様な就業機会の確保・提供に努めましたがコロナ禍の影響により目標には届かない結果となりました。

- (1) 年間就業延べ人数の目標を8,000人としましたが、コロナ禍の影響もあり7,586人で、昨年度の7,791人から205人の減となりました。
- (2) 福祉・介護分野への就業開拓を行いました。
- (3) 受託業務の見直しを行い、派遣業務への移行推進を図る予定でしたが実行できませんでした。
- (4) 派遣事業を行っている旨のチラシを作成し企業等へ配布予定でしたが実行できませんでした。

4. 普及啓発事業

シルバー人材センターの理念、仕組み、業務内容等を市民や企業、事業所等に理解していただき、事業運営の安定化を図るため様々な普及啓発活動に取り組む予定でしたがコロナ禍の影響により不十分な結果でした。

- (1) ホームページに最新の情報を掲載し、シルバー人材センターの概要や魅力を紹介しました。
また、市の広報紙の有料広告欄に会員募集等の情報を掲載し、広く市民にセンターの情報を発信しました。
- (2) 市等主催の「このす花まつり」は縮小されたものの参加しましたが、「ふれあい広場」、「コスモスフェスティバル」、「かわさとフェスティバル」、「産業祭」等のイベントが中止となり、今年度も残念な1年でした。
- (3) 会員が主体となり市内公共施設等において実施予定であったボランティア清掃活動をクリーンウォーク運動として見直し、市内2コースによりセンターのPR活動を行いました。マスコミ、市の広報紙にも取り上げられ成果を残しました。

5. 研修講習事業

就業機会の確保また拡大を図っていくため各種研修、講習会等を開催し、就業会員及び役職員の資質の向上に努める予定でしたが、コロナ禍の影響により不十分な結果となりました。

- (1) 植木、ふすま張替え等の技能講習会は、今年度は行いませんでした。
- (2) 飛び石事故などを防止するための刈払い機取り扱い講習会を6月30日に35名の参加により実施しました。
- (3) 派遣事業従事者を対象とした「スキルアップ研修会」は1月17日に開催しましたが、会員の対人関係の向上を図るための「接遇研修会」はコロナ禍の影響により実施できませんでした。
- (4) 福祉・家事援助サービス講習会は、今年度は行いませんでした。

6. 調査研究事業

会員一人ひとりが健康な体でけがや病気にならず健康寿命を延ばし、生涯働き続けることができるよう、下記の事業に取り組みました。

- (1) 会員の元気度を把握するための調査関係機関による「健康・生活アンケート」を実施し、264名の回答があり回答率は36.2%でした。回答者全体のフレイル判定結果としては、52.4%が健康、36.5%が要注意、11.2%が虚弱でした。
- (2) 連合が推奨するフレイル予防については、鴻巣市が進めている介護予防事業としての健康体操とどのようにリンクさせていくか、引き続き検討していきます。

7. 安全就業推進事業

「安全はすべてに優先する」ことを念頭に、安全意識の高揚、徹底と事故防止のための研修会や安全パトロールを計画しましたがコロナ禍により未実施事業もありました。

- (1) 安全・適正就業委員会を年間9回開催し、就業現場の安全パトロールを4回行い、安全対策の強化に努めました。また、先進団体への視察は、実施できませんでした。
- (2) 会員の健康診断の受診を推進し、健康意識の向上を図りました。
- (3) 自転車安全講習会を1回行い、会員の意識向上を図りました。また、運転シミュレーションが可能な体験車を活用し、高齢者自動車安全運転講習会を開催し、安全運転の意識向上を図りました。
- (4) 安全（3K）便りを4回発行し、熱中症予防や健康診断の受診を推進して、就業に対する安全・適正就業の推進を図りました。
- (5) 県央広域消防本部川里分署が行う予定の普通救命講習会は実施できませんでした。

8. 第3次中期計画の総括及び第4次中期計画策定事業

令和3年度が5か年にわたる期間最終年となった第3次中期計画の総括と令和4年度を初年度とする第4次中期計画の策定作業を行いました。

- (1) 第3次中期計画に掲げた12項目の概要について各部会及び委員会において、その検討作業を行い、各項目の評価及び改善点について総括を行いました。
- (2) 第4次中期計画の策定については、各部会及び委員会において検討を重ね、第3期計画を継承する形で12項目の概要を定め、向こう5年間の計画としました。